

# ヒロシマ平和親子派遣団

未来を担う子どもたちに現地を見聞きしてもらい、平和の大切さを感じ、親子がともに平和を学ぶ場として、連合群馬が独自に派遣する「ヒロシマ平和親子派遣団」が、5月3～5日の2泊3日で開催され、4回目の開催となる今回は、5産別から8家族17名が参加しました。

1日目は、新緑の眩しい平和祈念公園を訪れ、原爆の子の像へ平和の願いをこめて組合員や家族らが作成した折鶴1万羽を献納しました。また、原爆ドーム、爆心地、平和資料館を見学しました。



「原子爆弾によって、壊れた原爆ドーム、こうした建物があるからこそ、戦争はいけないと、改めて思いました。」

(中2 参加者)



2日目は、平和学習として、広島県原爆被爆者団体協議会の被爆体験者である「阿部静子さん」から体験に基づいた“爆心地周辺の様子”“原爆の恐ろしさ”“核兵器廃絶や戦争反対に向けた活動”について生々しいお話を聞きました。

その後、親子自由学習として広島市内の施設やモニュメントの見学を行い、当時の悲劇的な状況を現地で見聞きする中で学習しました。



「原爆体験者の方からお話をうかがいました。その方の話を聞いていると、悲しみや苦しみを感じられ、現在の日本とは思えませんでした。」

(中1 参加者)

## 第7次海外視察団

タイ・カンボジア



5月23日～28日の日程で、大橋団長をはじめ5産別・2地協・福祉事業団体から17名が参加し、タイ・カンボジアを訪問しました。

カンボジアでは、世界遺跡であるアンコールワットやアンコールトムを視察後、日本国政府遺跡救済チームの説明を受け、①遺跡の歴史的背景、②風化や木の根の侵食、③修復の歴史と技術、④現地の人たちへの技術伝承などについて学びました。



タイ大使館前にて



救済チームの説明を聞く



日新電機タイの工場見学

タイでは、日新電機タイを訪問し、天海社長（前橋工場出身）より①進出日系企業のニーズを捉えた製品開発と品質向上、②女性の活用や就業の定着率アップのための工夫など説明を受け、工場内を見学しました。

また、日本大使館では情報労連出身の元林一等書記官からタイの経済・労働事情について説明を受け、①企業の安全対策、②女性の働き方、③貧困層への援助など、活発な意見交換を行いました。